

N響 最も心に残ったコンサート&ソリスト 2025–26

1997年に「N響ベスト・コンサート」として始まって以来、今回で27回目を迎えるファン投票企画「最も心に残ったN響コンサート＆ソリスト」。2025–26シーズン（2025年9月～2026年6月）の定期公演から、演奏をお聴きになったみなさまに投票をお願いし、今回も700件以上の票が集まりました。みなさまの思い出がどのように順位に反映されているでしょうか。投票にご参加いただいたみなさま、ご協力ありがとうございました。

最も心に残った

N響コンサート2025–26

第1位 | 10月Aプロ | 第2046回 2025年10月18、19日

ストラヴィンスキー／詩篇交響曲(日本語字幕付き)

メンデルスゾーン／交響曲 第2番 変ロ長調 作品52「讃歌」*(日本語字幕付き)

指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット　ソプラノ:クリスティーナ・ランツハマー*　メゾ・ソプラノ:マリー・ヘンリエッテ・ラインホルト*　テノール:ティルマン・リヒディ*　合唱:スウェーデン放送合唱団





人生初のN響のコンサートで、最愛の曲を同曲最高の理解者で聞くことができた。半年以上経った今でも、強烈に印象に残る、最高のコンサートだった。(藤田怜也)

現地で聴いてとても感動しました。このような演奏は一生のうち何回巡り会うかわからないと思いました。(ひぃ)

まずプログラムが素晴らしかった。《詩篇交響曲》《讃歌》とも人生を寿ぐマエストロからの贈り物のよう。オケはもとより歌手陣・合唱とも非常に水準が高く、馴染みのない曲であるにも関わらず終始聴き入った。(エマちゃん)

ステージ上と客席の全員がブロムシュテットさんへの尊敬と感謝の気持ちを共有した、記憶に残る演奏会でした。3人の歌手は粒揃いで、とりわけ女声二重唱は息をのむほどの美しさ。 N響も渾身の演奏で、《讃歌》のクラリネットの響きは格別でした。そして音楽の大きなうねりを創り出していたのはスウェーデン放送合唱団。また来てほしいです。(池田太朗)

1日目を聞きました。本当にそこに神が存在しているように感じました。 NHKホールが豊かに響いていて、独唱、合唱、オケがマエストロのもとに結集していたのがすごかったです。(ジョニー)

ベートーヴェンの《第9》に劣らぬ名曲であることを認識させる超名演でした。巨匠の指揮でありながら、若々しさに満ちており、すがすがしささえ感じました。(戸次一夫)

メンデルスゾーン《讃歌》の後半、「夜は過ぎ去り、／昼が近づいてくる(Die Nacht ist vergangen, / der Tag aber herbei gekommen.)」の箇所で、会場に本当に光が差し込んだように感じました。演奏中に垣間見えたマエストロの横顔が、音楽を奏でる喜びに満ち溢れた表情であったことも印象に残っています。(小田嶋 大)

指揮者のパッション、ソリストの輝き、オーケストラと合唱の力量、すべてが揃った完成度が高いコンサートでした。メンデルスゾーンの《讃歌》の魅力を日本の聴衆に知らしめたと思います。(bowwow)

ブロムシュテットさんの指揮をどうしても聞きたくて、《讃歌》は聞いたことがない曲でしたが購入していきました。あまりにも素晴らしすぎて、それ以来ヘビーローテーションで聞くほど大好きな曲になりました。新しい世界を教えてくださったブロムシュテットさん、ソリストのみなさんと遠い国から来てくださった合唱団のみなさま、そしてN響のみなさまに心から感謝です! (AO)

第2位 | 11月Cプロ | 第2049回 2025年11月14、15日

ラヴェル／亡き王女のためのパヴァーヌ

ラヴェル／組曲「クープランの墓」

ラヴェル／バレエ音楽「ダフニスとクロエ」(全曲)★

指揮:シャルル・デュトワ　合唱:二期会合唱団★



想像以上の素晴らしさで、すぐに「今シーズンの1位はこれで決まり」と思った。合唱が入り豪華この上なく、またフルートの音色がこの世で聴けるものとは思えない、言葉に言い表せないもので驚いた。あの場にいた者だけが味わえた体験だったと思う。(羽根みどり)

40年ほど前からデュトワの実演をさまざまなオーケストラで数多く聴いていますが、11月Cプロの《ダフニスとクロエ》は次元が違う超名演でした。N響の演奏も信じられないほど素晴らしく、まさにN響の歴史に残る希有な最高の超名演だと思いました。(柳橋)

第3位 | 11月Aプロ | 第2048回 2025年11月8、9日

メシアン／神の現存の3つの小典礼★

ホルスト／組曲「惑星」作品32

指揮:シャルル・デュトワ　ピアノ:小菅 優★　オンド・マルトノ:大矢素子★　女声合唱:東京オペラシンガーズ



デュトワさんの指揮を初めて目の前で見ましたが、それはもう、圧倒的な凄さで、《惑星》の最初の音を聞いた瞬間にノックアウトされました。ホルストの迫力ある音楽と虹色の響きが素晴らしい。指揮姿は本当に格好よくて、歳は関係ないのだなと改めて思いました。最初のメシアンもオペラシンガーズやソリストのみなさんの出来も出色でした。メシアンを好きになりました。(鍛治礼子)

いつものN響のそれとは異なる音がホールを支配していた。音量は凄まじいがふくよかで色々な楽器の音がくっきりと聞こえてくる。マエストロとN響の長年の蓄積と綿密なリハーサルの賜物! メシアンも含めてコンサート全体が希有の名演でした! (二本柳啓文)

第4位 | 1月Aプロ | 第2054回 2026年1月17、18日

マーラー／交響曲 第6番 イ短調「悲劇的」

指揮:トゥガン・ソヒエフ



緩急の付け方が独創的でかつ感傷的で印象深い。《悲劇的》というと木槌(きづち)の印象だが、その他のメロディの豊かさが際立って、新しい側面を数多感じさせてくれた名演でした。(TY)

マエストロ・ソヒエフとオーケストラの強固な信頼関係のうえに成し遂げられた超名演。このコンビのますます輝かしい未来を予想せずにはいられなかった。(田口俊明)

わたしにとっては苦手なこの曲を最後まで一気に聴かせてくれたN響の実力に脱帽。ソヒエフの誠実な指揮ぶりも見事。(山本英一)

第5位 | 10月Cプロ | 第2047回 2025年10月24、25日

ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83

ブラームス／交響曲 第3番 ヘ長調 作品90

指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット　ピアノ:レイフ・オヴェ・アンスネス



指揮のブロムシュテットさんがブラームスと溶け合って、音と戯れているようでとても美しかった。(あきこ)

《ピアノ協奏曲第2番》は華美を排した素朴で明るく清らかで秩序だった美しさ。それだけに第3楽章のチェロとの甘美な掛け合いは天国的美しさが際立ち生きていて良かったと思えた。(チョコバン)

ブロムシュテットの指揮に往年を彷彿させる活力が蘇り、N響もそれに存分に応えて、神がかったような音楽を醸し出していました。人間味に溢れる暖かさと優しさが感じられる演奏でした。(西田広文)

第6位 | 2月Aプロ | 第2057回 2026年2月7、8日

シューマン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品97「ライン」

ワーグナー／楽劇「神々のたそがれ」―「ジークフリートのラインの旅」「ジークフリートの葬送行進曲」「ブリュンヒルデの自己犠牲」*

指揮:フィリップ・ジョルダン　ソプラノ:タマラ・ウィルソン*



フィリップ・ジョルダンが顔の表情、視線、10本の指先、そして全身を使って、楽団員一人ひとりに細かく指示を送って的確に統率することで生み出されたキレのある音が素晴らしかった。(松村五郎)

ジョルダン氏の古風とも言える指揮ぶりは往年の巨匠を思わせるものでした。タマラ・ウィルソンの歌唱も圧倒的で、NHKホールがオペラパレスのようでした。終演後のカーテンコールの熱狂は凄まじいものだったことが印象深いです。(おんきち)

気をてらったところはないが、すべての表現がピタリとハマり、音楽的な充実度が凄かった。(ふよふよ)

第7位 | 10月Bプロ | 第2045回 | 2025年10月9、10日
グリーグ／組曲「ホルベアの時代から」作品40
ニルセン／フルート協奏曲
シベリウス／交響曲 第5番 変ホ長調 作品82
指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット
フルート:セバスティアン・ジャコー

第8位 | 4月Bプロ | 第2061回 | 2026年4月16、17日
モーツァルト／クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622
マーラー／交響曲 第5番 嬰ハ短調
指揮:ファビオ・ルイージ
クラリネット:松本健司(N響首席クラリネット奏者)

第9位 | 6月Aプロ | 第2067回 | 2026年6月13、14日
ワーグナー／楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第17番 ト長調 K. 453
バルトーク／管弦楽のための協奏曲
指揮:ヤープ・ヴァン・ズヴェーデン
ピアノ:コンラッド・タオ

第10位 | 4月Aプロ | 第2060回 | 2026年4月11、12日
ハイドン／チェロ協奏曲 第1番 ハ長調 Hob. VIIb-1
ブルックナー／交響曲 第9番 ニ短調
指揮:ファビオ・ルイージ
チェロ:ヤン・フォーグラー

最も心に残った

ソリスト 2025–26

第1位 | 10月Aプロ | 第2046回 2025年10月18、19日

スウェーデン放送合唱団（合唱）

ストラヴィンスキー／詩篇交響曲(日本語字幕付き)

メンデルスゾーン／交響曲 第2番 変ロ長調 作品52「讃歌」(日本語字幕付き)



ブロムシュテットの指揮に深い信頼をもって応える、スウェーデン放送合唱団の歌声が強く心に残りました。決して大人数ではありませんでしたが、その澄み切った響きと豊かな表現力は、広大なNHKホールを満たし、客席の一人ひとりにまで確かに届いていました。「世界最高峰」と称される理由を、改めて実感させられた演奏でした。（石川友規）

「詩篇」という同じ題材でありながらもまったく違う2つの作品を精緻に表現することのできる合唱団の力量は本当に高く、所々で聴かせる声部ごとの絶妙な音量のバランスやクレッシェンド・デクレッシェンドのかけ方などがドキッとするくらい美しかったです。（びんよよん）

合唱の音色というのはこんなにも澄んでいて神々しいのかと気付かされました。（おんきち）

第2位 | 6月Cプロ | 第2068回 2026年6月19、20日

HIMARI（ヴァイオリン）

シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 ニ短調 作品47



音が澄んでいて、かつ表現が実に生き生きとしている。14歳とは思えない。真の逸材だと感じた。（満田達夫）

14歳という若さで、完璧なテクニックと曲に対する深い理解に裏打ちされたあれほど説得力のある音楽を奏でられることに驚嘆する思いだった。アンコールも含め、思わず聴き入ってしまう素晴らしい演奏だった。（七瀬）

第3位 | 10月Cプロ | 第2047回 2025年10月24、25日

レイフ・オヴェ・アンスネス（ピアノ）

ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83



ピアノの音色がよく通っていて、オーケストラと指揮者との一体感が素晴らしかったです。（めんちゃん）

前回より更に円熟味が増してきたアンスネス氏の演奏がブラームスの名曲に色を添えてくれました。（請川克宣）

アンスネスさんは、豪快、重厚以外のブラームスの面を、しっかりと丁寧に表現してくださいました。（山田洋一）

第4位
4月Cプロ | 第2062回
2026年4月24、25日
反田恭平(ピアノ)
プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 作品26

第5位
6月Aプロ | 第2067回
2026年6月13、14日
コンラッド・タオ(ピアノ)
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第17番 ト長調 K. 453

第6位
12月Aプロ | 第2051回
2025年11月29、30日
レオニダス・カヴァコス(ヴァイオリン)
ショスタコーヴィチ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 作品77

投票を通じて寄せられたみなさまの声

北海道在住の私は、クラシックに目覚めた高校1年の時（1977年～）から『N響アワー』、FM放送、『クラシック音楽館』などを約50年間ずっと見聴きし続けています。徳永兄弟、田中千香士さん、千葉馨さん、小島葉子さんの時代から現在もです。大学上京時に憧れのN響を憧れのNHKホールで、コシュラー、ノイマン、外山雄三、スウィトナー等の指揮で聴きました。素晴らしい演奏でした! 北海道公演は必ず聴きにいっています! 更なる飛躍を期待し、これからも聴き続けていきます。（河野正晴）

N響は夫婦で交互にコンサートに出かけ、ほっとコンサートや地方公演で地元に来てくれた時は家族で聴きに行っています。楽器体験は子どもたちの大好きなイベントで、特に小学生の息子はティンパニの植松さんに教えていただく機会があり、とても喜んでいました。親も感激でした! （文鳥）

会場では隣に居合わせた方とお話しすることが多いのですが、みなさん穏やかで年齢に関係なく対等に話してくださって、いかに音楽がいろいろな方の人生を彩っているのかを感じます。（さいほん）

2025年紅白の《天城越え》演奏がきっかけです。一度でいいから生で聴いてみたいと思っていたところ、倉敷に来られることを知り、チケットを買いました。教科書に出てくる曲くらいしか知らないのですが、初めて聴いたブラームスの《セレナード第1番》は記憶に残るメロディで、今も鼻歌を歌うように頭の中で曲が流れています。もちろんテレビ放送も見ました! オーケストラの皆さんの表情が画面で見られてこちらもよかったです。（大前実栄）

高校の音楽教員です。その時、その瞬間、その場にいなければ味わえない生きた音楽との出会いを楽しみに、定期公演に通っています。このハイクオリティな演奏を生徒たちにも聴かせたい…… と思い、音楽室の黒板横にはN響のチラシを貼ってアピール! 興味がありそうな子には声をかけています。未来を担う若い世代にN響の素晴らしさがもっと伝わりますように。微力ながら、「推し活」を続けていきます! （真壁宗太郎）

学生時代に会員で、今シーズンから再び会員に復帰。神田さんのフルート、吉村さんのオーボエ、松本さんのクラリネットは間違いなく日本一。そのようなアンサンブルを聴けるN響は日本一。会員復帰は間違いなかった。（渡邉 暁）

ファビオ・ルイージが指揮するN響が大好きです。2028年に首席指揮者の座を離れても、毎年（何度でも）招聘していただけたらうれしいです。桂冠名誉指揮者に就任される記念に、ルイージのアクリルスタンドを販売してください! （ばんなこった）

N響の音楽を聴き始めて、29年経ちました。会員としては、早くも25年になります。N響の懐かしいメンバーを『クラシック音楽館』で観て、月日の経つ早さを痛感してしまいます。昔も今も、変わらぬ美しい、感動的なハーモニーに、いつも心温まる思いです。今年の1月に、大事な主人を亡くしましたが、Aプロ、Bプロと、休まず行きました。N響サウンドに、かなり救われました。これからも、せっせと通いたいです。（遠藤利英子）

招聘してほしい指揮者 ベスト5

①クラウス・マケラ
②タルモ・ペルトコスキ
③サイモン・ラトル
④トゥガン・ソヒエフ
⑤フィリップ・ジョルダン

招聘してほしいソリスト ベスト5

①藤田真央
②HIMARI
③ユジャ・ワン
④ヒラリー・ハーン
⑤務川慧悟